

「ハイパフォーマンス割当枠の代表推薦選手選考基準」 Q&A

今回発表の「ハイパフォーマンス割当枠の代表推薦選手選考基準」に関して、想定される質問とその回答（Q&A）を以下に挙げています。

Q.1 この「ハイパフォーマンス割当枠」は男女それぞれ何枠でしょうか？

⇒東京パラリンピック陸上競技では、男子 630、女子 470 の選手枠数があり、以下の順に該当する選手の NPC にそれぞれ 1 枠割り当てられます。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①2019 マラソン世界選手権大会割当枠 | ②2019WPA 世界選手権大会割当枠 |
| ③参加資格ランキング枠 | ④レプリゼンテーション割当枠 |
| ⑤マラソン資格ランキング | ⑥ハイパフォーマンス割当枠 |

（バイパルタイト枠は男女各 7 枠の予定）

つまりハイパフォーマンス割当枠は①～⑤の割り当て後、男女それぞれの残数となります。また、①～⑤で参加枠対象となっていない、かつ期間内（2018 年 10 月 1 日～2021 年 6 月（日付未定））にハイパフォーマンス標準記録を突破した選手数に応じて、各国にその残数が割り当てられます。以上より、「ハイパフォーマンス割当枠」の枠数は、2021 年 6 月に WPA より正式通知が来るまで未定となります。詳細は「東京パラリンピック・陸上競技選手枠割当基準（2020 年 4 月 30 日版）」をご参照ください。

Q.2 今回の「ハイパフォーマンス割当枠の代表推薦選手選考基準」は陸上競技全体に適用されるのでしょうか？

⇒本基準は、2021 年 6 月（日程未定）に世界パラ陸上（World Para Athletics; 以下 WPA）より通知予定のハイパフォーマンス割当枠のうち、本連盟、日本知的障がい者陸上競技連盟ならびに日本ブラインドマラソン協会のパラ陸上競技 3 団体の協議の上、本連盟に分配された枠数について、本連盟登録会員を対象に適用するものです。日本知的障がい者陸上競技連盟ならびに日本ブラインドマラソン協会に分配された枠についてはこの限りではなく、選手選考はそれぞれの競技団体の基準に従います。

Q.3 「I. 選考対象条件」はいつの時点の条件でしょうか？

⇒本選考が行われる選考委員会（WPA よりハイパフォーマンス割当枠の正式通知（2021 年 6 月）の後、早期に開催が予定）が開催される時点での条件となります。

Q.4 ハイパフォーマンス標準記録突破期間が「2018 年 10 月 1 日～2021 年 6 月（日付未定）」となっていますが、日付はいつ頃確定されますか？

⇒この日付は WPA により決定されるもので、いつ頃確定されるかについての情報はありません。WPA より公表され次第、連盟 HP より情報提供を予定しております。

Q.5 推薦順位算出手順でユニバーサルリレーチームを構成するメンバーが最初なのはなぜですか？

⇒ユニバーサルリレーは東京パラリンピック・陸上競技で唯一の団体種目であり、またメダル獲得可能性が考えられる種目です。今後の日本チーム全体の競技力向上を図る上でも、ユニバーサルリレーの出場は重要と考えられることから、重点強化として優先することとしました。

Q.6 「Ⅲ. 推薦順位算出手順」にて、2019年世界パラ陸上競技選手権大会の順位を用いるのはなぜですか？

⇒日本パラリンピック委員会（JPC）が2019年6月6日に公表した「東京2020パラリンピック競技大会・日本代表選手団編成方針及び選手選考基準」において、選手選考基準として「メダル獲得または入賞の可能性のある者」の条件を明記しています。そのため、陸上競技におけるメダル獲得または入賞の可能性について、過去の大会の結果を基に分析を行いました。その結果、メダル獲得または入賞の可能性が直近のベンチマーク大会（世界選手権等）の順位と非常に高い相関を示すこと、つまりベンチマーク大会上位は有意にメダル獲得可能性もしくは入賞可能性が高いのに対し、順位が下がると有意に低いこと、また、ランキングよりも世界選手権の順位でこの傾向が強いことが認められました。このことから、JPCの示した選考基準に合わせて、2019年世界パラ陸上競技選手権大会の順位を用いることとしました。

一方、直近のベンチマーク大会に出場していないパラリンピックでのメダル獲得選手が、ある割合でいることも認められます。その中には若い年齢層の選手や競技開始から期間があまり経っていない選手なども多くみられます。そこで、そのようなパフォーマンスが飛躍した選手らに機会を提供するため、2021ジャパンパラ陸上競技大会の記録も含めた換算順位をトラック&フィールド種目には用いることとしました。

一方、マラソン種目においても当初はトラック&フィールド種目同様、ベンチマーク大会の結果を参考とするため、2021年WPAパラマラソンワールドカップの結果を適用することを検討していましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で、マラソン資格ランキングにて枠が割当てとなることが2020年10月2日にWPAより公表されました。そのため、今回はマラソン資格ランキングを換算順位に適用することにしました。

Q.7 2021ジャパンパラ陸上競技大会が「ハイパフォーマンスランキング対象期間内ではあるが、当初の日程ではなく延期開催となる場合、3-2の適用条件について改めて通知を行う。」とありますが、どのようなことでしょうか？

⇒ジャパンパラ陸上競技大会が延期開催する場合、その理由となる状況に応じて適用条件を検討します。検討の際には、当初開催予定の大会にエントリーした選手が、延期開催により追加でエントリーした選手に比べて不利になることがないよう考慮する方針です。

Q.8 「Ⅲ. 推薦順位算出手順」の4.にて、「全体の選考規程に準じて、該当種目内での内定順位が4番目以降である場合、その選手の推薦順位を除外する。」とありますが、どのような意味でしょうか？

⇒「2020 東京パラリンピック競技大会の日本代表推薦選手の選考について」（以下、全体の選考規程）にて、トラック&フィールド種目では

- ① 2019 世界パラ陸上競技選手権大会で4位以内入賞した選手。
- ② 出場資格ランキング枠該当選手
- ③ ハイパフォーマンス標準記録突破選手

の順に、1つのメダル種目内で最大3名まで選考するとしています。そのため、①および②にて既に3名内定しているメダル種目についてはハイパフォーマンス割当枠の選考は適用しないとしています（「Ⅱ. 選考の方法」2. に該当）。

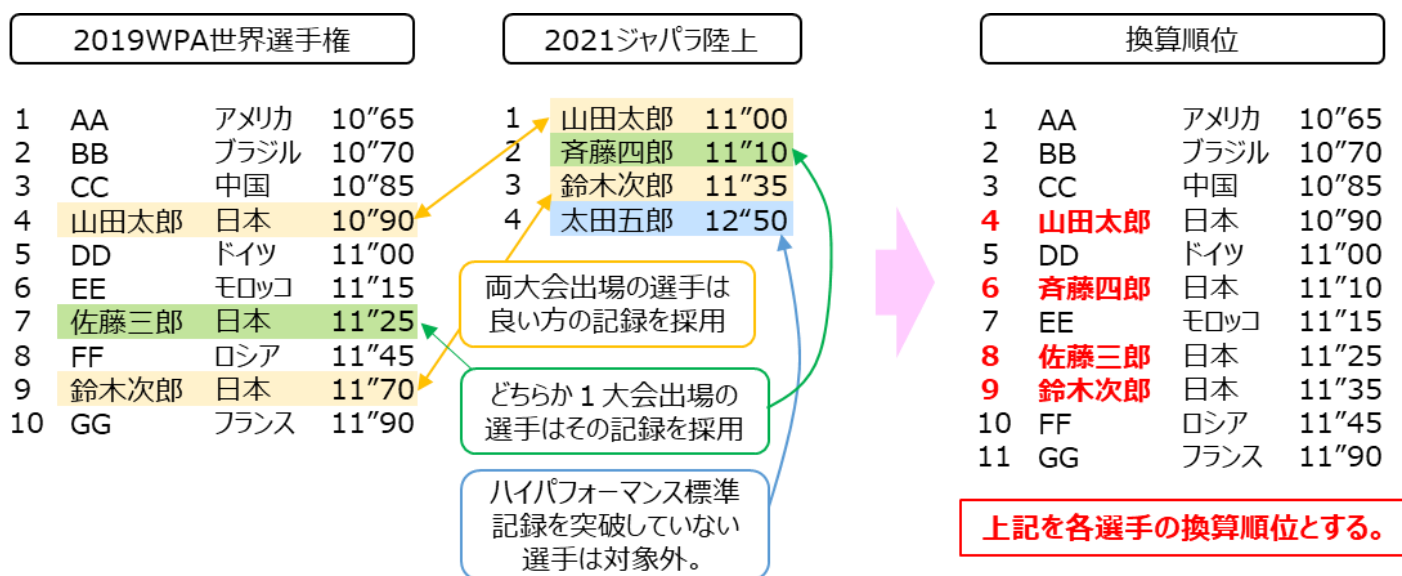
一方、①および②の内定選手が2名以内の場合は該当種目でも推薦順位を算出することになっています。その際、例えば、①および②の内定選手が2名、ハイパフォーマンス割当枠対象選手が2名で、合計が3名を超える場合も考えられます。この場合、推薦順位の算出により、ハイパフォーマンス割当枠対象選手が2名に対して、その種目での3番目、4番目が決定されます。しかしながら、1つのメダル種目内で最大3名まで選考であることから、4番目の選手の順位は対象外、つまり除外となります。

Q.9 添付1の「2019世界パラ陸上競技選手権大会での換算順位の算出方法」について、分かりやすく教えてください。

⇒以下、いくつかの例を具体的に示します。参考にしてください。

<例1>

男子T**の100mの換算順位



<例2>

男子T# #の100mの換算順位

